第1回 シーニックバイウェイ（仮称）戦略会議 議事要旨

- 日本型のシーニックバイウェイ（仮称）のコンセプト・進め方について
- 中央集権の形ではなく、地域が主体となり活動する形が大事である。
- 北海道のシーニックバイウェイは国主導で始まったが、現在では地域の活動を専門的な部分などでサポートする形となっている。
- 北海道や九州の取組から学ぶことも多いのではないか。
- 地域が主役、行政が脇役となり、道だけではなくまちづくりも実施していくことを考えている。
- 既に行われている様々な活動に目を向け、促進することを考えている。
- 最初から最後まで道が主役とならないような取組みが必要である
- 地域の人々の活動（例えば、植栽活動）を大事にし、活かす取組みとしたい。
- 景観は生きており、それらを守っていくということがシーニックバイウェイである。
- 地域の人々の思いを汲み取れる施策にするべきである。

■ルートの公募について

○地域の人々が参加できるように、ルートのイメージを分かりやすく示す必要がある

○観光地づくりの方法は多様であり、現時点でも様々な活動が実施されている。それらの活動との整合が図れるような調整が必要である。

○評価には、“資源”と“運動”の2つの素材が存在する。アメリカでは運動を非常に重要視している。

○アメリカを見習うのであれば、NPOの継続性を重視するべきである。

○ルートの指定は、ルートの品質保証、地域のブランド化、ルート間での切磋琢磨が図られるため、必要である。

■日本型のシーニックバイウェイ（仮称）の名称について

○名称は、コンセプトにかかわるものなので、重要な意味を持っている。

○シーニックバイウェイに対する認識が各委員により異なる中で、名称を議論するのは難しい。

○名称は重要なテーマであるため、慎重に検討する必要がある。

○事務局と相談し、名称の決め方を検討する。